武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会

（令和３年度第２回）

令和４年３月２８日（月）

オンライン

（事務局：武蔵野市役所西棟８階８１２会議室）

令和３年度第２回 武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会 議事要録

■日　時：令和４年３月２８日（月）午後７時～午後８時

■場　所：オンライン（事務局：市役所西棟８階 812 会議室）

■出席者：田原順雄、天野英介、石井いほり、谷口勝哉、佐藤博之、鎌田智幸、秋元千香、近藤和正、磯山公一、石川公教、小島一隆、武永慶志、小原光文、金丸絵里、三浦弘嗣、守矢利雄、山田剛（敬称略）　17 名

■事務局　保健医療担当部長、地域支援課長、生活福祉課長、高齢者支援課長、高齢者支援課相談支援担当課長、障害者福祉課長、保険年金課長、地域支援課３名、高齢者支援課１名

□議事録

１　開　会

２　委嘱状交付

新たに就任した委員に委嘱状を交付。（オンライン会議のため郵送）

【委員】　　前任者のＳＯＭＰＯケア武蔵野の齋藤さんが異動され、引き継いだ。居宅連絡協議会の副会長のグリーンパークの近藤です。よろしくお願いしたい。

３　配布資料確認

事務局より配布資料の確認を行った。

４　議事

【会長】　　武蔵野市医師会の田原でございます。皆さん、お集まりいただき、誠にありがとうございます。すぐに議事に入りたいと思う。

【会長】　　今回の議題は、次第のとおり。（１）「令和３年度　在宅医療・介護連携推進事業の報告」と（２）「令和４年度　在宅医療・介護連携推進事業について」。まず、５つ

の部会報告と支援室の実績報告を事務局及び石井委員からいただき、それに補足があった場合は部会長から若干補足していただき、あと、質疑応答に移りたいと思う。

事務局　説明省略

【会長】　（１）の令和３年度の報告はあるが、４年度については何も述べられていない。これは後で皆さんから意見を聴取するという感じでいいのか。

【事務局】　皆様から、今年度はどのような形であったかということと、来年度に向けての話をいただければと思う。

【会長】　石井委員から支援室の報告をお願いしたい。

【委員】　今年度の実績を報告する。

相談件数はご覧のとおり。昨年度は感染症関係の相談が激増した。今年度は、コロナウイルスがどのようなウイルスか少しわかってきたこと、検査体制、入院のルートについても理解が深まったこと、ワクチン接種体制が整ったことなどから、コロナ関係の相談は減少した。コロナ以外の医療と介護の相談は例年どおり。

次に、相談内容。コロナ関連の相談に関して、前年度は、「熱が出た。どうしよう」といったパニックの相談が多数あった。今年度は、「濃厚接触者の介護について」、「介護者が陽性の場合の介護について」など、具体的な医療と介護の相談等に変化している。これについては、陽性者への訪問可能な訪問看護事業所やレスキューヘルパーなどの調整をした。また、市役所の自宅療養者支援センターと連携した在宅療養患者への医療介入も、医師会の先生方のご協力もあり、順調に調整ができた。

コロナを離れた相談内容としては、例年どおり在宅療養調整が６割を占めている。訪問診療について、専門性のあるクリニックについて、また、終末期のご相談やグリーフケアについてと、多岐にわたって相談をいただいている。

相談者は、例年どおり地域包括・在支・居宅を含めたケアマネや相談員から６割以上の相談をいただいている。医師会のホームページに相談室の紹介があるので、市民からの直接のご相談もあるが、現状ではこれを広げずに、いただいたご相談には傾聴と該当機関につなぐ対応をした。

出席会議、訪問件数とも、感染症の制限の中、留意しながら関係づくりをすることができた。

考察としては、昨年度は予期せぬ感染症で始まり、冬期への再拡大リスクに翻弄されたが、今年度はパニックの相談からより具体的に在宅支援と結びついた相談が多い印象だった。

当支援室としては、今年度のコロナ関連事業として、集団接種の医師、看護師の配置調整や、令和３年２月から市役所防災課に設置された自宅療養者支援センター経由の医療相談を行った。この２事業を通じて、市民の安心安全に迅速に対応でき、なおかつ、医師会会員の医師、協力看護師、行政との連携を深めることもできたと思う。

医療介護相談に関しては、整形疾患と内科疾患、内科疾患と精神疾患など、重複して多科の経過観察が必要な、ちょっと複雑な相談が増加傾向である。また、コロナの不安も相まって精神状態が不安定な介護者、被介護者も多く、ちょっと虐待ケースに近いものも出てきているので、精神科との連携も必要不可欠という印象を持っている。

また、緩和ケア、グリーフケア等、多様化した相談にも対応できるように研鑽を積みたいと思う。

また、連携支援室の中長期的な展望や体制、相談窓口としての対象者の検討なども皆さんと話し合いをしていきたいと思う。

【会長】　今年度石井委員は集団接種で活躍していただいた。ありがとうございました。

それでは、各部会長から何か補足はあるか。入退院時支援部会の久保部会長、何かあるか。追加がなければディスカッションに移りたい。

【入退院時連携部会長】　特に補足することはない。

【認知症連携部会長】　認知症部会では、多職種連携部会との合同による研修会という形で、テーマは認知症集中支援事業だが、これまでの認知症部会の方を対象とした研修会をかなり広範なところに広げて、結構反響が大きかったのかなという感想を持っている。

【普及・啓発部会長】　普及・啓発部会は、先ほどの報告のとおり、今回は映画の配信を２本立てで行った。なぜ２本になったのかというと、昨年もケアのほうの映画を配信したが、それに対する高評価が多かったということ、あと、部会員の方々も全員がなかなか見る機会がなかったということもあり、昨年の作品も含めて視聴できる体制づくりとのことで、２本立ての配信となった。

その中で、冒頭、松下市長からのメッセージ動画が流れた。そこでおっしゃられていたことを紹介すると、高齢者の暮らしを支えるためには医療と介護はなくてはならないものである。医療と介護の両方が必要な高齢者は今後さらに増加していき、その連携はさらに

重要となっていく。医療と介護の連携について考えるきっかけになったらということで、映画を上映する意図を視聴者の方に伝えていただいた。

そういうことで、きっかけづくりには一定つながっていったと思う。

あと、リーフレットにつきましては、必要な修正箇所の確認のご協力をいただき、取りまとめなどは事務局の方々に大変お世話になった。改めてこの場をかりて感謝を申し上げたいと思う。

【会長】　多職種連携部会について。まず、１回目のほうは自宅療養支援についての講演会的なものだったが、これは国としても東京都としても武蔵野市としても非常に大きな事業で、医師会としても今まだ継続しており、皆さんと情報共有ができてよかった。

認知症連携部会との合同研修については、Ｚｏｏｍを使って、初めての試みで、ブレイクアウトルームというグループ別にディスカッションをする形を行ったが、事務局がしっかり準備したおかげでまずまずうまくいって、新たな研修スタイルだった。

ＩＣＴ連携部会のほうは、ＭＣＳの登録者数は順調に伸びているところで、それを改めてＭＣＳのメンバーのほうから話をいただいて再確認をしたということと、果たして実際的にどの程度使われたかというところは検証しなければいけないところはあるが、今後ＭＣＳの役割はまだまだ続いていくだろうと思うので、それを確認できてよかったという点である。

一応説明が終わりましたので、早速、意見交換をしたいと思う。

今年度最後ですから、ちょっと多いので、お一人短くコメント、ないしは来年の展望について、順番にお願いしたい。

【委員】　それこそ、この支援室がどういう方向に行くのかというところと、もっと周知していかないといけないというところで、皆さんの協力を仰ぎながらもう一つステップアップしたいと思う。よろしくお願いしたい。

【委員】　歯科医師会でも、やはりコロナ禍でなかなか後方支援事業が滞っている状況だが、ただ、口腔内の環境が悪くなるといろいろな症状が悪化する傾向があり、ぜひとも来年度はまた積極的にやっていきたいと思う。

【委員】　来年度に向けて、薬剤師会では、地域連携薬局ないしは健康サポート薬局と、各地域との連携をどんどんつないでいかないといけない状況になっている。この会がその地域の皆様との連携の足がかりとなるようにこれからも協力していきたいと思う。

【委員】　　１２月のＩＣＴの研修会に、私も参加した。コロナ禍ということもあり、来年度もやっぱりＭＣＳの活用、それから普及と、ケアマネジャーとして登録者数を増やしていければと思っている。

【委員】　　ＭＣＳを通してほかの職種の方と連携をとっていくことと、研修の中でそれぞれの職種の方の強みが知れたので、訪問介護の職員として、今後も連携をとりながら情報を共有していきたいと思う。

【委員】　　２０２１年度も結構コロナに左右されてきたというのがどこのデイサービスの事業所も多かったと思う。その中でも、ＭＣＳで主治医の方といろいろ連携がとれたり相談できたりしたことは大変ありがたかった。

利用者の状態変化をとても追いやすい仕組みなので、これからももっと活用できたらいいと思う。次年度はできるだけコロナなどに左右されないような体制ができていけばいいと思う。

【委員】　　本年度は、まず自宅療養者支援ということで、電話連絡とか、物品の搬送の受託をした。また、レスキューヘルパー事業ということで、感染されたり、濃厚接触者になった方への訪問介護をする事業の受託をした。来年度も同様に受託する予定で、支援できればと思う。

気になっているところは、最近のオミクロンの影響かどうかわからないが、施設系がかなりクラスターというか、陽性者が発生するとかなり広がるような傾向があるようだ。福祉公社では、まだそのようなクラスターにはなっていないが、感染に注意しながら対応できればと思っている。

【委員】　　今年度の印象としては、ケースの対応について、ＭＣＳを活用した事例が非常に多かったという印象がある。その中で、やはりタイムリーな動きを、介護と医療の間で共有しながら支援を進められたところが実感できたのは非常に大きかったと感じている。

あとは、在支・包括の中では、コロナの感染者とか濃厚接触者の対応について、６センターで情報共有しながら支援についても検討してきた。次年度以降もそういった対策について検討していければなと思う。

【委員】　　途中から委員になったが、この協議会は、横のつながりが出てきて大変いい会議だと思っている。来年度は、福祉関係もどんなことができるか、どういう連携ができるのかということをぜひ積極的に考えていきたいと思う。

【委員】　　今年度、多職種連携部会では、東京都医師会の西田先生の講演を、ＩＣＴを活用することによって、今までと同じような内容の研修会ができたと思う。あわせて、認知症部会と合同で、部会同士の協働、部会と部会との横の連携ができ、部会同士の連携も大事であると改めて感じた。次年度も引き続き、部会の横のつながりも必要だと思う。

【委員】　　障害福祉分野では、今年度取り組みとして、在宅の人工呼吸器使用者の方に災害時の個別支援計画を訪問看護事業所の協力で作成した。先日も地震があり、いざというときの計画ということで、医療との連携は今後もとても必要だと思う。

来年度以降は、例えば精神障害の方、長期入院の方を地域に戻すといったような地域移行というようなところで、やはり医療とか、地域の方との連携というものの必要性が国のほうからも示されている。来年度以降、障害者福祉では、医療との連携を含めて、考えていきたいと思っている。

【委員】　　普及啓発部会は、２年連続、映画上映となった。この後コロナの感染状況がどうなっていくかにもよるが、いずれにしても市民セミナーは、大変重要な位置づけとしてあると思う。多職種連携とか、まちぐるみの支え合いをよりわかりやすく伝え、医療・介護が必要になっても自分らしい生活を住み慣れたまちで続けられるようにということと、意思決定の支援に役立つ情報の発信に引き続き努めたい。

【委員】　　今年を振り返ると、やはりコロナの問題だと思う。私は入退院支援部会に入っているが、直接、面と面で向き合って支援する機会が減っている中で、今日行っているＺｏｏｍとか、会場と同時のハイブリッドというようなやり方もでてきて、今後コロナがおさまったとしても、今回のこういう経験は、ゆくゆく退院支援の場で非常に生きてくるのではないかと思う。コロナの感染がどういうふうになるかわからないが、コロナだからこそ学べた入退院支援もあったので、次年度に向けて、よりよい質の高い入退院支援ができるようにいろいろ考えていきたいと思う。

【会長】　　皆さんコロナの話をしていたが、今年を振り返って幾つか気になったのは、ふじみ野市であった在宅訪問を行っていて患者さんに殺された事件である。つまり、在宅を訪問した先の認知症の方のケアとか、そういうのを、実際にこれまでずっと何年もいろいろ検討してきたが、訪問する側の安全を非常に考えることが一回は必要ではないかなと思う。

殺人とまでいかなくても、我々の職種というのは患者さんとの誤解から生まれるトラブルというのは日常茶飯事である。外来でもそういうことがある。それは本人の対応の仕方

が悪いといえばそれまでだが、一人で訪問したり、訪看の人、ヘルパーの人、一人で行ったときにトラブルが起きることもあると思うので、そういったことを考える機会を、研修会でもいいから、一回あってもいいかと思う。

それから、疾患別に言うと、今、認知症とか、ＡＣＰとか、脳卒中ということが盛んに取り上げられてきているが、最近、学会とかで聞いていると、慢性心不全の在宅というのが取り上げられる機会が結構ある。そういうところに私も苦労した点があるから、疾患としてはそういうものについても考えなければいけないなと思った。

それから、ＩＣＴのほうでは、ＭＣＳのことは、皆さん本当によくご存じだし、こういう有用なツールだと捉えていると思うが、最近、難病のほうの訪問で、Ｚｏｏｍを使って、訪問した人間と専門医とが対話でやっていくというようなことが、これは国の事業だったと思うが、来年度から始まる。そういうツールも、ＭＣＳにとどまらず、ほかのものについても目を向けてもいいかと思う。

それから、最近のロシア・ウクライナ問題をテレビで見ていて、ウクライナで在宅医療とか受けている人はどうしているのだろうか。例えばポーランドに２００万人とか３００万人近くが移動したと言われているが、ああいうときに、在宅を受けておられるような方はいたのだろうか。いたとしたら、どういうふうに対応していったのだろうかとか思った。

災害も、自然災害だけではなくて、ああいう人為的な災害を、今後は日本だって想定しなければいけない。災害が起こったときの対応というのは、やはり日本は災害国家なので、一つ考える必要があると思う。

そんなことを来年度も皆さんと幾つか考えていければと思っている。

皆さん方のご意見を頂戴して、大変勉強になり、参考になった。全体を通じて何か意見があれば、ここで伺いたい。

【委員】　入退院支援部会に伺いたいが、オンラインでいろいろ会議を行ったりする上において、患者さんの個人情報の問題とか、あとは、こういうツールを事業所として使うこと自体が、特に介護の事業所の方とか、ちょっとハードルが高いような印象を持っている。当院でも、そういう形でオンライン会議ができるように一回整備したが、思ったほど、思うようにできないというところもあった。その辺のところを伺いたい。

【委員】　これが利用できたらいいと一番思っているのは、退院前カンファレンスである。ただ、個人情報がダダ漏れになる可能性がある。実際に、個人情報とかあまり考えずに、先走ってＺｏｏｍを使ってやったケースはあるが、恐らくそこの整備というか、法解

釈というか、個人情報保護的にどうなのかということは、これから議論していかなければならない。

あと、入退院支援加算。何カ所かの事業所単位で、退院支援とかに当たる人で、ケアマネジャーとか、医療相談員とか、年間２５施設ぐらい対面して、ミーティングを開いたことでとれる加算がある。そういう個人情報を取り扱わないような施設間同士でのミーティングで、加算につながるようなミーティングにつなげられれば、それも最終的には入退院支援に役に立つので、そういったところに活かしていければいいと思う。

あとは、究極の形が、退院前カンファレンスとか、共同指導については、個人情報的にはどうかというところはこれから解決していかなければいけないと思っている。現実的にはまだ具体的にすぐやりましょうという感じではなくて、これからそのハードルを越えるにはどういうふうにしていけばいいのかということは議論していかなければいけないと思っている。

【入退院時連携部会長】　　入退院支援部会のほうから追加で少し答えたい。

先ほど話があったが、個人情報の関係は本当に難しい問題だと思う。ただ、実際のところ、やはり対面でなかなかカンファレンスが持てないこともあり、ご家族様の了解をいただきながら、こちらのほうでも退院前カンファレンスなどをしている。

コロナ禍になってから、非常に複雑な問題を抱えている方の退院支援とかも含まれている。先ほど報告があったが、やはり虐待を疑われるようなケースとか、本当に繊細な問題を抱えるケースの退院支援を今後やっていかなければいけない。その辺のところは、今後、入退院支援部会でもまた検討していく項目であるかなというふうには考えている。

先ほど入退院支援加算の話もあったが、４月の報酬改定で、いわゆるヤングケアラーという項目も、退院支援の対象となる方として、入院時のスクリーニングの対象となり、児童や、そういった分野との連携も必要になるかと考えている。

【会長】　　ほかにご意見はあるか。何か別の話題もどうぞ。特にないか。
それでは事務局にお返しする。

【地域支援課長】　　会長、ありがとうございました。委員の皆様からは、来年度に向けた指摘もたくさんいただいた。事務局で意見をまとめて、次年度の事業計画案という形で、また部会長とも相談をしながら、次年度以降に活かしていきたい。

４　その他

【地域支援課長】　　来年度については、日程調整させていただき、また改めて提案したい。４月１日付で市のほうで異動の内示あり、ご紹介させていただく。

小島委員、金丸委員、守矢委員より挨拶。

事務局（小久保課長、稲葉課長、吉野課長、勝又課長、菱沼）より挨拶。

【健康福祉部長】　　本日は、年度末の大変お忙しい中、協議会にご参加をいただき、改めて御礼を申し上げる。本日の協議会をもって、今年度の活動については一区切りというところと思う。

ただいま異動する職員の挨拶があり、課長がほとんど交代するが、後任の職員は皆、保健、医療、福祉の分野での経験がある職員が着任する。また私と一ノ関部長は来年度も現職にとどまるので、引き続きどうぞよろしくお願いしたい。

また、今年度の協議会の活動は、昨年度に引き続いて、コロナ禍の中で非常に厳しい活動を強いられたと思う。各部会ともに創意工夫を凝らした取り組みをしていただき、改めて御礼を申し上げたい。

先ほど会長からも紹介いただいたが、多職種連携推進研修部会では、８月に西田先生をお招きした研修会を開催した。まさしく新型コロナの自宅療養支援に関しては、我々が他自治体に先駆けて積極的に取り組んできた在宅医療・介護連携が、まさにその中核であるということを改めて認識した。

また、こちらも他自治体に先駆けて早期に取り組んだ本市のいわゆるＩＣＴ連携、ＭＣＳでの連携につきましても、先週の健康福祉総合計画・地域共生社会推進会議の中で、委員であるケアマネジャーからも、ＭＣＳを活用して、いわゆる感染者の情報についての情報連携はできないかという要望もあった。そういった部分での検討が今後進めばいいかと思う。

いずれにしても、来年度もコロナ禍は継続し、活動もなかなか思うようにいかない部分もあるとは思うが、本市が他自治体に先駆けて様々に取り組んできた在宅医療・介護連携、またＩＣＴ連携について、他市に向けてもっと情報が発信できるような、そんな取り組みも新しい担当のもとで進めていきたい。引き続き皆様の理解と協力を賜りたい。

本年度、本当にありがとうございました。また来年度もどうぞよろしくお願いをいたしたい。

５　閉　会

午後７時５１分　閉会